

2021 年度
情報経営イノベーション専門職大学
入学者選抜試験 一般入試 A 日程

国語

注意事項

1. 試験時間は 60 分。
2. 試験開始の合図があるまで開かないこと。
3. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページ落丁、乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせること。
4. 解答用紙には解答欄以外に受験番号等の記入欄があるので、監督者の指示に従ってそれぞれ正しく記入すること。
5. 解答は、問題に対応した解答用紙の解答欄にマークすること。
6. 問題冊子は持ち帰らないこと。
7. 試験終了まで退出しないこと。



次の問題に答えなさい。

問1 次の傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、各問いの①～⑤の中からそれぞれ選びなさい。

A ガンキョウな構造の建物。解答番号は、。

- ① ガンコな汚れ
- ② 石綿をガンユウした素材
- ③ ホウガン投げの選手
- ④ 無神経でコウガンな態度
- ⑤ イノベーションにシユガンをおく学校

B 戦争のない社会をキキユウする。解答番号は、。

- ① 事件の真相をキユウメイする
- ② スマートフォンのフキユウが進む
- ③ 被害者をキユウジヨする
- ④ 姫は貴公子からキユウコンされた
- ⑤ 食料をハイキユウする

C 商品の購入をキョウヨウされた。解答番号は、3。

- ① 突然の質問にドウヨウした
- ② 失敗に対してカンヨウな態度を示す
- ③ ジュウヨウ文化財に指定された
- ④ 水玉モヨウの洋服だった
- ⑤ 社長秘書にサイヨウされた

D 予算は大幅にケズられてしまった。解答番号は、4。

- ① たくさんのチヨサクを残した作家
- ② 辞書のサクインを活用する
- ③ 時代サクゴの見解だ
- ④ 領主からサクシユされる農民
- ⑤ 生徒の文章をテンサクした

E デビューした当時はソウキした。解答番号は、5。

- ① 国民のソウイにもとづく政治
- ② 太古の昔をソウゾウしよう
- ③ ソウリツ記念の式典
- ④ 学校をソウタイした
- ⑤ ソウゴンな教会建築

二
次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

繁昌亭

大阪天満宮に隣接して繁昌亭はんじょうていという定席かみがたの上方落語の寄席がある。寄席では毎日落語が上演されている。通常の寄席では、噺家はなしかが演じる落語の題名は予告されていない。演じる噺家の名前だけを観客は知っていて、上演される噺の内容は事前には知らないのである。噺家自身も当日まで他の出演者が何を話すか知らない。楽屋にあるネタ帳に最初の出演者から順番に演じる噺を書いていく。後の出演者は、自分の演じるものが他の出演者と重なってしまわないように、当日、ネタ帳を見ながら決める。後から演じる噺家ほど大変だが、それだけ持ちネタが多いということだ。

さて、私は「経済は落語より奇なり」というテーマで繁昌亭に出演する機会があった。寄席にしては珍しく、上演されるネタが事前に告知されていた。「道具屋」、「はてなの茶碗ちawan」、「壺算つぼざん」、「千両みかん」という商取引をテーマにした落語である。私が出演したのは、仲入り後の鼎談ていたんで、上演される落語について経済学的な視点を提供するという役割である。ちなみに、寄席で行われる落語以外の演芸は色物と呼ばれる。鼎談も落語ではないという意味で色物となる。実際、当日の繁昌亭の前には、噺家の名前は「黒」、鼎談出演者である私の名前は「赤」で書かれた看板が出されていた。

千両みかん

繁昌亭で当日上演された噺は、いずれも価格の不思議さを笑いのもとにしたものだ。なかでも、「千両みかん」は、価格と価値の関係をうまく描写している。この話をしっかり読み解くことができれば、あなたの経済学の理解度はかなり高いことになる。

千両みかんの内容を簡単に紹介しよう。八月のある日、呉服屋の若旦那わかだんなが急に明日をも知れぬ重病になる。医者によれば心の病であり、心にかけていることがかなえば全快するという。大旦那が番頭に、欲しいものを聞き出すように命じると、みかんが食べたい、ということだ。しかし、江戸時代なので、夏にはみかんがない。番頭は、何としてもみかんを手に入れてこい、と大旦那に言われる。ようやくたどり着いたのが、天満のみかん問屋である。そこで、無傷のみかんが一つ見つかる。みかん問屋が言う値段は千両。番頭は大旦那に相談すると千両でみかんを買えということになった。若旦那は一〇房のうち七房を食べたところで、残りを両親に二房、番頭に一房食べてもらおうように、番頭に差し出した。

廊下に出たところで、番頭は、「三房で三〇〇両の価値があるみかん」を持って逃げることに決めた。

「千両みかん」の笑いのポイントは、モノやサービスに対する私的価値を共通価値と混同してしまうところである。私たちは、ある品物の価値と言われると、即座にいくらで売れるかという価格のことを思い浮かべる。そういう意味で、価格と価値は同じものだと考えることが多い。この番頭も、大旦那の私的価値としてついた千両という価格を、共通価値と同じだと思い込んでしまったのだ。しかし、少し考えてみればわかるが価格と価値、特に私的価値は異なるものだ。

価格と価値

昔、「一〇〇円でポテトチップスは買えますが、ポテトチップスで一〇〇円は買えません」という藤谷美和子のテレビCMがあった。一九七六年のことなので、これを知っている人は、それなりに歳を取っている人だということになる。一〇〇円でポテトチップスが買えても、ポテトチップスは必ずしも一〇〇円で売れないというのは、人によってポテトチップスに与える価値が違うということを意味している。

モノの価値は人によって違う。同じペットボトル一本の水でも、喉が渴いている人とそうでない人では、その価値が全く違うのは明らかだ。ところが、水の価格は人によって異なることはない。一般に、価格というのは、需要と供給で決まる。その時成立する価格というのは、売った人の中でもっとも売りたいくない人がぎりぎり売ってもいいと思っている価格であり、買った人の中でもっとも買いたくないと思っていた人が買ってもいいと思っていた価格なのである。ぎりぎり買うことに決めた人以外は、買い手が最大限出してもいいと思っていた価値より安い価格で買っているのだ。だからこそ、売買という交換によって人々は得をするのだ。

あるモノやサービスについて、その私的価値と市場価格を比べて、私的価値の方が価格よりも低い人が売り手になり、私的価値の方が価格よりも高い人が買い手になる。これが交換の利益が発生する理由である。したがって、モノを保有している人は、市場価格よりもそのモノに対する私的価値が大きいからこそ保有しているのである。

勝者の呪い

特殊な場合には、私的価値に近い価格で取引が行われることがある。千両みかんの場合は、売り手が一人で買い手がどうしても欲しい、という状態なので、売り手は買い手が買ってもいいぎりぎりの値段で売ることができる。言ってみれば、ネットオークションで一番高い値段をつけて人に売るようなものだ。

もっとも高い値段をつけた人が買っているのだから、転売しようとするれば、必ずそれより低い値段しかつかないはずだ。これが、オークションでいう「勝者の呪い」である。「勝者の呪い」というのは、オークションで落札できる人は、その品物の価値を **A** に評価した人だか

ら、必ず損をするというものだ。もちろん、オークションで手に入れた品物を転売する気がなければ「勝者の呪い」は発生しない。他人よりも高い私的価値を自分をもっていたとしても、それは自分が損をすることにならない。ところが、転売して儲けるとか、その品物を使って儲けようという場合には、損失を被るという意味で「勝者の呪い」にかかってしまう。プロ野球選手がどの球団とも選手契約できるフリーエージェントになった場合、複数の球団のなかで一番高い年俵や移籍金をオファーしたところが選手を獲得する。しかし、しばしばその選手の活躍は期待はずれということになりがちだ。

つまり、みかん一個に千両という値段がついたのは、みかんに対する大旦那の私的価値とほぼ等しい金額を、みかん問屋がつけることに成功したからである。売り手独占の状況で、みかん問屋はどうしてもみかんを売らなければならないという状況にはなく、大旦那はどうしても欲しい、という状況であるから、大旦那の私的価値にかなり近い価格がついたのである。それでも、大旦那にとっても私的価値の方が千両という価格よりも高いから、みかんを購入することで得をしている。

^④競争的な状況であれば、みかんの売り手は多数いるため、売り手間の競争が発生して、市場価格はみかんを売ってもいいぎりぎりの人とみかんを買ってもいいと思うぎりぎりの人の価値が一致する値段で取引される。したがって、それ以外の人々は、私的価値より価格が高い人が売り手になり、逆の人が買い手になることで、大多数の人はみかんの売買によって得をするのである。

シグナル

ところで、冷凍設備がない時代にもかかわらず、どうしてみかん問屋は、夏までみかんを取っておいたのだろうか。冬がシーズンのみかんは、いくら涼しい倉庫の中とはいえ、冷凍しなければほとんどが腐ってしまう。実際、みかん問屋は、五〇箱のみかんを保管していたが、ほとんどが腐ってしまった、たった一個だけ無傷のみかんがあったのだ。みかん問屋の主人は、みかん問屋である以上、問屋としての信用を守るために、いつお客さんが来てもみかんを売ることができるよう、保存費用をかけてみかんを保管していると主張する。夏にみかんが欲しいという客はほとんどいないにもかかわらず、万一の需要に応えることができることが、みかん問屋の信頼になるといえるのだ。コストをかけてみかんを夏まで保管していることは、みかん問屋の信頼の程度を示すシグナルの役割を果たしているといえるだろう。ちょうど、簡単には倒産しない銀行であることを示すために、多くの銀行が中心街に立派な建物の本店や支店を建てることと同じである。

さて、夏に一個しかないみかんは、それが存在していることが、みかん問屋のシグナルになっているのであるから、売ってしまってもなくなれば、^⑤シグナルとしての機能がなくなってしまう。そういう意味ではシグナルを失う機会費用分のみかん問屋は要求することになる。

ただし、どうしてもみかんが欲しいという人の足下^⑥を見てみかんを高く売りつけたという悪い評判がたってしまうと、みかん問屋にとっては

望ましくない。実は、東京版と上方版では、みかん問屋が千両という値段をつける経緯が異なっている。東京版ではみかん問屋は最初から千両という足下を見た値段を提示している。しかし、上方版ではみかん問屋は、最初は番頭に同情して、タダでみかんをゆずるという提案をする。しかし、番頭が「金に糸目をつけない」と見栄を切ったため、みかん問屋は値段を千両にしたのだ。商人の街だった大阪では、評判がものゝうため、みかん問屋は困っている人の足下を見るような行動をとらなかつたのに、番頭が見栄を切ったために、逆に高い値段をみかん問屋がふっかけたのではないだろうか。落語の中には意外に深い経済学の議論が隠れている。

「落語の中の経済学」(「競争社会の歩き方」、大竹文雄、中公新書)

※ただし、一部改変した。

問1 傍線部①「鼎談」の意味として最も適当なものを、次の中から選びなさい。解答番号は、6。

- ① 共通の話題について、二人で対談すること
- ② その場にいる複数の人が楽な気持ちで話し合うこと
- ③ 特定のテーマをもとに、一人で講演すること
- ④ 三人で、向かい合って話し合うこと
- ⑤ 話し手が客席の人と質疑応答をすること

問2

傍線部②「番頭は、『三房で三〇〇両の価値があるみかん』を持って逃げることに決めた」とあるが、本文の流れから、この時の「番頭」の考えとして最も適当なものを、次の中から選びなさい。解答番号は、7。

- ① 番頭は、呉服屋の大旦那の信頼を裏切っても、この三房のみかんを食べることによって自分の病をなおそうと考えた。
- ② 番頭は、今の立場ではとても入手できない三〇〇両という大金がほしくなって、この三房を自分の手で売ろうと考えた。
- ③ 番頭は、夏にはめつたにない貴重なみかんを探し出した自分への報酬として、この三房は独占する資格があると考えた。
- ④ 番頭は、無傷なみかんが千両で売れるという事実を知り、呉服屋をやめて天満のみかん問屋に転職しようと考えた。
- ⑤ 番頭は、夏にみかんをほしがる若旦那のわがままとそれをかなえようとする大旦那の姿にあきれて店をやめようと考えた。

問3

傍線部③「藤谷美和子のテレビCM」という過去の事例を通して筆者がいたかったことはなにか。その分析として最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、8。

- ① 価格というものは、一般的には需要と供給でまるということ
- ② 価格は、買ってもよいと思われるぎりぎりの水準でまるということ
- ③ お金で商品は買えるが、商品でお金を買うことは不可能だということ
- ④ 交換の利益というものは、売り手と買い手の双方に発生するということ
- ⑤ ある商品に見出す価値は万人共通ではなく、個人差があるということ

問4

空欄 A にはいる最も適当なことを、次の中から選びなさい。解答番号は、9。

- ① 巨大
- ② おおげさ
- ③ ひかえめ
- ④ 適正
- ⑤ 過大

問5 傍線部④「競争的な状況」がもたらす結果について説明した文として最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、

10。

- ① 買い手が複数いることによって価格がさがり、比較すると買い手の側に利益が生まれやすくなる。
- ② 売り手と買い手が複数うまれることで、価格が高いところで安定し双方に豊かさが実感される。
- ③ 売り手が複数いることによって価格が安定し、売り手と買い手の間のアンバランスが解消していく。
- ④ 売り手と買い手が複数うまれることで、価格がおさえられいわゆる物の価値が相対的に低くなる。
- ⑤ 売り手と買い手が限定されることによって、私的な価値をめぐる争いが逆に競争的になっていく。

問6 傍線部⑤「シグナルとしての機能」が目指していることの説明として最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、

11。

- ① ある行為や事実により、その店の評判や信頼度を象徴させて、ひろく社会にプラスのイメージを浸透させること
- ② ある行為や事実を使って、その店の将来性ばかりでなく社会に対する貢献度の高さまでもアピールすること
- ③ ある店が、商品とは無関係なイメージを浸透させることで、自らの商売に対する消費者の支持を高めること
- ④ 社会で好感をもって受け入れられている既存の「記号や象徴」を多用して、企業のイメージを高めようとする
- ⑤ その店であつかう商品には他にはない独自の価値があるということを「記号や象徴」を使ってアピールすること

問7 点線部⑥「足元を見て」を言い換えた表現として最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、

12。

- ① 支払い能力を推測し
- ② 背後関係を分析し
- ③ 相手の弱みに同情し
- ④ 人の弱みにつけこみ
- ⑤ 利己的に判断し
- ⑥ 過大

問8

点線部⑦「見栄を切った」と同じ意味の表現として最も適当なものを次の中からひとつ選びなさい。解答番号は、

13。

- ① 小学生の妹が「とても自分にはできない」と見栄を切った。
- ② 社長が「先月は過去最高の売り上げだった」と見栄を切った。
- ③ 我が部のキャプテンが「今年は優勝できる」と見栄を切った。
- ④ 昔、ある学者が「それでも地球はまるい」と見栄を切った。
- ⑤ ある大臣が「今後はテレワークが主流になる」と見栄を切った。

問9

傍線部⑧「意外に深い経済学の議論が隠れている」とあるが、「千両みかん」という落語に隠されている経済学の論題として最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、

14。

- ① 価格と価値の関係とはどういうものか、商行為におけるシグナルの機能とは何か。
- ② 価格はどのように決められていくのか、経済活動におけるシグナルの効果をどう測るべきか。
- ③ 経済における独占と競争のメカニズムとは何か、シグナルの機能をどう高めていけばよいか。
- ④ 価格はどのように決定されるのか、「勝者の呪い」がしばしば発生する理由は何か。
- ⑤ シグナルの機能、および私的な価値が価格におよぼす影響にはどのようなものがあるか。

三

次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

さて、このところ想像を絶するような事件が相次ぐ。

暴くべきことを暴き、知るべきことを知らしめる報道の力は大きい。

しかし、一方で、このような時に毎度いわれることながら、関係者の家族へ、これが人間のやることかと疑いたくなるような、しつこいといよりは、あくどいインタビューには、いう言葉を失う。

今回は、忘れ難い叙述トリックの傑作をご紹介します。実は、そういうことと無縁ではないからだ。

作曲家服部公一はっとりこういち氏の「やつこらしよ、どっこいしよ」がそれである。文春文庫の『巻頭随筆』に収められている。文章は三段に分けられている。まず、こう始まる。

松木先生の英語の授業には、中学一年の生徒は毎時間死にもぐるいであった。先生の質問にあやふやな返答をしようものなら、その罵詈雑言と共に使い古しのちびたチョークがなさけ容赦なく機関銃のたまのようにとんで来た。

恐い先生の話である。こういう先生を持たした生徒は幸せものである。

我が恩師にも、Aといった方はいらつしやる。ある時、地元の病院で看護師さんと世間話になった時、こういわれた。

「あ、H先生に教わったんですか」

「はい」

「わたしもね、先生が女子校にいらした頃に教えていただいたんですよ」

世の中、狭いものである。さらに看護師さんは続けて、

「ちょうど今日、東京の医大の先生がいらしてて、その方もH先生に教わったんですって」

「はあ」

「顔を見合わせてね、二人で思わずいっちゃいましたよ」一呼吸、置いて、「《恐かったですねえ》」
わたしも頷き、

「恐かったですねえー」

日先生を囲む会は、今も不定期にある。

さて、そのような、ありがたくも懐かしい恩師の思い出話かと思うと、二段目はこうなる。

不幸にしてMは背の低い少年であったから、最前列教卓のすぐ前にいつも坐っていた。

友人のことになる。

ちびのくせに、フットボールの試合などでは、^②独活の大木のような私をはねとばすようになかまわるファイトマンの彼も、松木先生の授業の前に、その席のせいとか、あるいは生来のまじめさの故か、いつもかなり緊張して、細心の下調べをしていた。そして始業のベルが鳴るとつとめて気をひきたたせるようおどけた調子で、

「やっこらしよ、どっこいしょ」

と調子をつけてドスンと椅子に腰をかけ、この苛酷な授業を待つのであった。

不思議な題の意味も、ここで明らかになった。これは《古きよき時代》の思い出話だ。——わたしは、そう思った。

《M》という同級生については、さらに次のように語られる。《お袋さんと二人でつましく暮しているということで、弊衣破帽へいいはぼうの悪童連の中で、お袋さんの配慮のゆきとどいた清潔なみなりをしている例外的な生徒であった》。この友人を描くことで、そこにあった《若き日》を出現させようというのだな、と思った。

最後の段落は、二十数年ぶりに開かれた同期会のことから始まる。

彼、村川政義は、みちがえる程立派な面がまえの日航の国際線機長だった。

B

、パターン通りの、功なり名とげた人物達の懐旧譚だった。——わたしは、そう領きかけて、ふと考えた。先程まではイニシャルの《M》で語られていたのに、^③なぜ、ここで《実名》が出てくるのだろう。

いぶかしく思いつつ、読み進んだわたしは、あつと息を呑んだ。

そして、再会後数ヶ月の昭和四十七年十一月二十九日、彼はモスクワ・シユレメチエボ空港で離陸に失敗して墜落したDC8の機長として死んでしまったのである。

名前が出たのは、成人した彼が《あの人物》になった、という意味なのだ。抑えに抑えた、しかし、激しい憤りの言葉が続く。

えものにうえていたはげ鷹のように、マスコミはその事件をとり扱い、機長の気のゆるみがこの大事故の原因ではないかとまことしやかな推論をたてた。

この文章を語るのに、レトリック、ましてやトリックなどという言葉を使ったら、服部氏の怒りはわたしに向かうかもしれない。しかし、わたしはトリックの四字を、真剣に使っている。こういう形を取らなければ、決して伝えることのできない思いが、ここにはある。続く二行は、わたしをまたまた、あつといわせ、ことの総てを明らかにしてくれた。

それが証拠に、ボイスレコーダーの録音テープに、
「やっこらしよ、どっこいしょ……」という機長のおどけた声が残っているというのである。

一面的な報道に対する個人の抗議は、力弱い。——ましてや、当人が死んでいては。だが、生きている友は、——はるかに遠い青春の日々を、共有した友は知っていた。ことに当たらんとする時の、彼、村川政義の口癖が何だったかを。

世間を相手に、その誤解に一言できる者は自分しかない。自分がいわなければならぬ。そういう熱い思いが、この文章を書かせている。であるのに、核心に至るまでの筆致の、この抑制はどうだろう。見事としかいいようがない。

当たり前に書くなら、この文章は、Cから始まるだろう。謎。そして、ボイスレコーダーの発見。第一の結論。その否定と論証。こうなる筈だ。だが、筆者は《英語の先生》から始めた。

いつてみれば巧みに巧んだ文章である。それなのに、少しも嫌みではない。仕掛けが単に読者を驚かせるためのものではないからだ。時の歩みの中で、出会うことになってしまった事件。それに対する自らの驚きを、運命の理不尽さに対する怒りを、読み手に、共有してもらおうための必然の書き方だからだ。

読者は何の先入観もなしに、まだ《あの人物》ではなかった頃の《M》と出会う。そして、その教室で筆者と同じように彼を知る。読み返してみれば実に慎重に選ばれた言葉を、——《ファイトマン》《生来のまじめさ》《緊張して》《細心の下調べ》と拾っていきながら、思わず目頭が熱くなるのは、わたしだけだろうか。

その一語一語は、人柄を語るものであると同時に、抗議である。無量の思いである。文章は、こういう一行で結ばれる。

早いもので彼の一周忌も過ぎてしまった。

「懺悔と叙述トリック」〔謎物語〕、北村薫、創元推理文庫

問1 傍線部①「罵詈雑言」の一般的な読み方として、最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、15。

- ① メリゾウゲン ② バリザツゴン ③ バリザツゲン ④ メリザツゲン ⑤ バリゾウゴン

問2 空欄 A にはいる四字熟語として、最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、16。

- ① 豪放磊落 ② 秋霜烈日 ③ 天下泰平 ④ 謹厳実直 ⑤ 勤儉力行

問3 傍線部②「独活の大木のような私」を言い換えたものとして最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、17。

- ① 体格がよいわりには、動きがすばやい私
- ② 大きな樹木のように確かな安定性をもつ私
- ③ いつも冷静で、しかも口数のすくない私
- ④ 体は大きいのに、何の役にもたない私
- ⑤ 勝ち負けにこだわらないゆったりとした性格の私

問4 空欄 B にはいることばとして、最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、18。

- ① しかし
- ② つまり
- ③ そして
- ④ さらに
- ⑤ やはり

問5 傍線部③「なぜ、ここで《実名》が出てくるのだろう」という問いに対する答えを、筆者は文中でどのように述べているか。最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、19。

- ① かつての友人Mの実名を明らかにすることによって、今は故人となった友への哀悼の意を示すため
- ② 国際線の機長として功なり名をとげた人物が、実は自分の親友であったことを読者に伝えるため
- ③ 飛行機事故の報道で有名になった人物が、中学一年生のときの友人Mと同じであることを示すため
- ④ かけがえない友人が、いま心ない報道の犠牲になっていることを知り、その人物の無実を訴えるため
- ⑤ Mという抽象的な表記でかつての友人を紹介することは、彼の名譽を汚す行為であると反省したため

問6

傍線部④「わたしはトリックの四字を、真剣に使っている」にこめられた筆者の思いはどのようなものか。最も適当なものを次の中から選
びなさい。解答番号は、20。

- ① 文章はこびのうえで使われる様々な仕掛けというものが、必然のものとしてあるときの力強い効果について、私はまじめに考えたい。
- ② トリックというと人をだますもののように思われがちだが、トリックの役割の本質はそれとは逆の正直さであるといいたい。
- ③ 人の文章を批評するとき、文中のトリックやレトリックに注目することが筆者を知ろうえでとても重要なことであると主張したい。
- ④ 随筆の傑作の条件とは、計算などの作意的な意識から使われるトリックを読者に自然なものと思わせられるかどうかであると訴えたい。
- ⑤ トリックとは文中にみられる仕掛けであるが、それを安易なテクニクとみなさずに、そこに筆者の真剣な人生態度を見出していきたい。

問7

空欄

C

にはいることばとして、最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、21。

- ① 日本における新聞報道
- ② 中学時代の「英語」の授業
- ③ 機長のまじめで細かな性格
- ④ モスクワにおける飛行機事故
- ⑤ 二十数年ぶりに開かれた同期会
- ⑥ 村上氏の一周忌の法要

問8

傍線部⑤「抗議である」とあるがどのような抗議であるか。最も適当なものを次の中から選びなさい。解答番号は、22。

- ① 事件の関係者に対して共感性のまったくないあくどいインタビューを平気で行うマスコミは、その姿勢をつよく反省してほしい。
- ② ボイスレコーダーに残る村上機長の発言を根拠に、気のゆるみがあったと決めつけて、彼を責めることは非人間的なことである。
- ③ 村上機長のまじめな人柄を知るかつての同級生に取材もせず、勝手な人物像を捏造した新聞社を決して許すことはできない。
- ④ モスクワの空港における飛行機事故の原因を、日本人の機長にだけ押し付けるような見解は公平かつ科学的なものではない。
- ⑤ 自分の主張を正当化するために、ボイスレコーダーの一部分を都合よく切り取るうとするあり方は最近のマスコミの悪しき傾向である。